

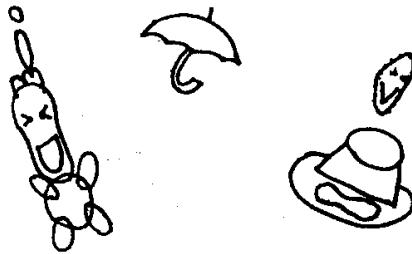
とき めぐり きたら 土岐・運・来

会報「土岐・運・来」第19号
 発行 自然・馬・人の会
 発行日 2002年10月6日(日)
 只今の会員数 正会員 55家族
 協力会員 29家族
 賛助会員 1家族



— 目次 —

- ◇ 乗馬会レポート(6・7・9月) 1~2
 - ◇ 訃報・追悼文 2~4
 - ◇ 吉川純也さん退職 4
- (サドルバック)



《6月乗馬会レポート》(事前受付43名・当日受付53名・ボランティア42名)

6月の乗馬会は朝から天気予報どおりのいい天気でした。(逆に暑すぎた位なので、ここまでいい天気じゃなくてもよかったのに…と終わってから思いました) 今回は最初のプログラムの時間をボランティアの研修にあてたので、その分いつもより作業をスムーズにできていたと思います。日中はかなり気温が上がり、お昼にはみんなバテバテだったんですけど、サドルバックの高橋さんから頂いたおいしい「びわ」をお昼に食べて気合いを入れてその後のプログラムもみんなで頑張りました。それと今回は千夏ちゃんと愛子ちゃんが北条五代祭りの時に話が出ていたお誕生日カードを4、5月生まれのボランティアさんや会員さんに渡し、休憩の時には6月生まれの人の写真を撮っていました。僕も4月生まれなので今回もらったんですけど、なかなかいい出来だったので、これから誕生日が来る人は是非楽しみに待ってくださいね。 (郡司掛仁史)

《7月乗馬会レポート》(事前受付46名・当日受付23名・ボランティア42名)

前日は天候がありよくなくて、明日の乗馬会は大丈夫かな?と心配していたのですが、当日はピカピカのよい天気に恵まれて馬も人も汗をかきながらの乗馬会となりました。

初めて乗馬会に参加してくれたボランティアさんもいて当日乗りの横ではボランティア研修を行っていました。プログラム乗馬の方では6月から始めている各馬ごとの会員さんの名前紹介とブラッシングを行い、会員さん同士で名前を覚え声をかけたり、話すきっかけになったりと少しずつ交流がもてるようになってきているようです。またブラッシングをすることで馬に触れそこから感じることも沢山あり、馬と仲良くなるきっかけの1つになっていく思います。

これからも「自然・馬・人の会」という名前のように少しのきっかけからでも自然と馬と人が深くつながっていけたらいいなあと思います。 (ウッキーこと神谷友美)

《9月乗馬会レポート》（事前受付32名・当日受付20名・ボランティア43名）

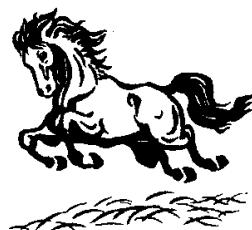
まだまだ残暑が厳しい9月1日、その日は僕にとって4回目の乗馬会でした。5月に初めて参加した時には、ボランティアという活動自体が初体験で、右も左も分からぬ感じで1日が過ぎてしまったけど、今回はそろそろ周りも見えてきて、馬を撫でるその手も結構慣れたものでした。でも馬具をつけていないと、今自分が撫でてる馬の名前もとんと見当がつかないので、早く馬の名前と顔が一致するようにしたいです。あとボランティアや会員の人の名前と顔もまだ憶えきれていないので、馬よりまずはそちらをしっかり憶えたいです。

そして仕事内容の方というと、いつもの様に騎乗者を中心に順番待ちの子供と遊んだりしてました。が、今回感じたのは、騎乗者とのコミュニケーションをとるのがなかなか難しいなあという事でした。騎乗するのは、障害者も含め、子供からお年寄りまで色々な人がいるのに、いつもワンパターンな接し方しか出来ずにいるので、もっと相手によって臨機応変にコミュニケーションをとれる様に考へていきたいと思っています。また今回は、初めて参加するボランティアがとても多かったので、僕にでも教えられる事は結構あったはずなのに、馬装の事とか、騎乗者への声掛けとか、1日のスケジュールとか、上手く伝えられたという実感がぜんぜんありませんでした。そんな時すぐに周りの経験ある人に甘えてしまって、自分は1歩引いていたので、出来ることぐらいは率先してやらないとダメだなど、ちょっと反省しました。

こんな感じでまだまだ頼りにならない僕ですが、これからもみんなと楽しく頑張っていきたいので、どうかよろしくお願ひします。

(齊藤洋介)

◆運営委員の田中さん逝去◆



←5月の乗馬会での田中さん

がんを患い、闘病生活をしていた田中真^{まさ}さんが7月2日に41歳で永眠されました。会では広報を担当し、会報の発行に尽くされました。亡くなる日まで会報作りに携わり、自分の責任を最後まで果たされた姿には頭が下がります。ばっかりとあいた大きな穴は残された者で不十分ながら埋めていきたいと思っています。ご冥福をお祈りいたします。

~~~~会長よりの追悼文~~~~~

今回は悲しい話を報告しなければなりません。広報の運営委員として会報づくりをしていただいている田中さんが7月2日に亡くなりました。41才でした。

田中さんが亡くなつてからもう3ヶ月になろうとしています。時の経つのは早く、私たちは日々の雑事におわれてゆっくり自分のことや他人のことを考える時間もありません。それなのに雑事にまぎれて『あの人はこんなことをいっていたなあ』とか『あの人はこんな笑い顔をしていた

なあ』と、突然脈略もなく思いだしてしまう。一瞬時間が止まる時があります。

1999年に田中さんはインターネットを通じて自然・馬・人の会を発見し、参加してくれました。その後運営委員になっていただき会にはなくてはならぬ人になりました。その頃の思い出に根府川のサドルバックで研修会をしたときに田中さんが自転車でやってきて驚いたことがあります。あの曲がりくねった上り坂の旧道を自転車で来るなんて、なんて元気な人だろうと思ったことを覚えています。田中さんことを思い出すといつも明るい光があたっているような場面を思い出します。彼の明るく、正直で、素直な人柄がそうさせるのだろうと思います。他の人に常に優しく親切な人でした。善良でいて、しかし芯のしっかりした力強さを持った人でした。それは東京恵比寿の『命のコンサート』で遺憾なくあらわれていました。人の良さだけでは人を感動させる音楽は作られない。絶え間ない練習と確固とした曲への思いがなければすばらしい演奏はできない。力強さと優しさを両立させることは簡単なことではないと思う。その意味でも田中さんは希有な人でした。

とても大事な人でした。いろいろな活動に参加されていたと聞いています。それぞれの活動の場で大切な人だったと思います。「自然・馬・人の会」にとってもとても大切な人でした。田中さんが「自然・馬・人の会」に与えてくれたものはとても大きい。田中さんの与えてくれた元気と思いを私たちは自分たちの活動にいかしていこうと思う。それが私たちにできる唯一のことだから。田中さんの冥福を祈ります。

(会長 桜井広利)

★湯河原在住の会員安西さんご夫妻からも追悼文をお寄せいただきました。安西さんは去る3月にお子さん(陽香さん 中1)を亡くされたばかりでした。

田中真さんへ

すっかり痩せてしまった身体を喪服に包み、涙を手で拭うこと
もわすれ娘の通夜の席で泣いて下さる男性がいました。

「僕も同じ病気なんです・・」そう言って手を握りしめてくれた田中さんの掌はとても温かく大きなものでした。

「末期がん」真正面から病名を聞かされ、どう答えてよいのか
と戸惑う私達に「頑張って悲しみから立ち直ってください」と贈ってくれた笑顔・・
その裏側に見えかくれる「死の恐怖」との孤独な戦い・・

「純真無垢」そんな言葉が、似合う方でした

悲しい時は泣けばいい、辛い時は叫べばいい、幸せは分ければいい、独りではないのだから、忘れかけていた大切なものを思い出させてくれる方でした。田中さんの残してくれた「命」は、私達の心の中で繋がり息づいています。天国から奏でてくれているであろうピアノの調べに耳を澄ませながら、いつしかまた温かい手にふれられるその日まで、足跡を道標に・・合掌



(安西正利・由美)

◆そのほか追悼文が寄せられているのでご紹介させていただきます。

6月の乗馬会に田中さんはご家族で参加されました。ひき馬で、まだ2歳くらいの田中さんのお子さんのサイドにつきました。「お父さんに手を振ってね！」と言うと、車椅子に乗る田中さんに手を馬の上から元気に手を振っていました。この時のことを、お父さんの思い出として覚えていてほしいと願わずにはいられません。ピアノコンサートなど、田中さんからは勇気と元気をいただきました。ありがとうございました。

(福田 美子)

田中さんで思い出すのは真っ白なスポーツウェア。乗馬会で、とても目立っていた、真っ白なスポーツウェア。自転車でサドルバックまで馬に乗りに来るときも、真っ白なスポーツウェア。それが田中さんを一番表しているような気がします。

真っ直ぐ、純真、幅広い好奇心、分け隔てのないやさしさ、何事にも熱中する。でも、その裏返しで、ちょっと頑張りすぎたのではないか、と怠け者の私は思っています。

田中さんは馬の話をばかりで、他の話をしなかったので、恵比寿に聴きに行くまで田中さんがピアノを弾くことすら知らなかったのですが、他にもいろいろなところで活躍していたのを後で知って、もっともっと話を聞いておけばよかったと思っています。

私のいい加減な研修を受けてもらったあと、すぐに田中さんからメールが届きました。そのメールは、私の研修について痛いところを突いてはいますが優しさにあふれていて、今も私の大事な宝物です。

田中さんの他人への思いやりにあふれた話し方を貴重なお手本として、私の乱暴な話し方を少しでも直していくのが、田中さんへの私の追悼になるのでは、と思っています。

さようなら、とは言いません。これからもよろしく。 (ヤギさんこと田所清人)



乗馬会を囲む林の向こうから、病院を抜け出してきた田中さんが、大沼さんに車椅子を押してもらひながら、なんだか馬に乗るのを楽しみにしてきた子どものようにウキウキしながらやつてきた姿を、今でもはつきり覚えています。

田中さんは、まっすぐ私の前まで来ると、にっこり笑って、握手の手を差し出し、「原稿読みました。新連載はぜひ軌道に乗せていましょう」と会報の新連載に励ましの言葉をくださいました。あのどきの握手の感触は忘れません。

田中さんの編集してきた会報には、乗馬会を全体から暖かく包み込むような田中さんの視点がいつもあふれています。

きっとこれからもあの林の向こうから、田中さんは乗馬会全体を、優しく見守ってくれる。・そう思っています。 (坂梨勝一)

サドルバックの吉川純也さん10月退職

江之浦のサドルバックで馬の調教・管理をしていた吉川さんが10月いっぱいで退職されることになりました。

吉川さんの日ごろの調教のおかげで、私たちは、安心して乗馬会を行うことができました。また、サドルバックでの実技研修の折にも馬の扱い方を分かりやすく教えてくださいました。今後のご活躍をお祈りしております。

※ なお会員インタビュー②は次号に掲載したいと思います。

「自然・馬・人の会」会長 桜井 広利

〒250-0045 小田原市城山1-3-22

TEL 0465-32-1308 FAX 0465-32-1332

E-mail na-nhp@wb3.so-net.ne.jp(中村)

ホームページ

<http://www2.famille.ne.jp/~luna/horse/>